

# 戸次本町にぎわい創出 ワークショップニュース

## 第2号

発行：令和3年8月  
大分市まちなみ整備課  
市街地整備班  
TEL (097) 537-5637

- ～プログラム～
- 1.開会
  - 2.自己紹介
  - 3.本日のテーマ説明・情報提供
  - 4.テーマ1：課題解決の方策を考えよう
  - 5.テーマ2：私が、地域が、行政ができることを考えよう
  - 6.発表
  - 7.閉会
- 開催日時：令和3年8月7日（土）（18時～20時）  
会場：大南市民センター（大南支所）  
参加者：19名



戸次本町のにぎわい創出に向けて、戸次地区の魅力や将来像を考える「戸次本町にぎわい創出ワークショップ」第2回を、8月7日（土）に大南市民センター（大南支所）で開催しました。第2回は、『まちなみ「これから」を考えよう』と題し、参加者19名が3班に分かれグループワークを行いました。

テーマ1：「課題解決の方策を考えよう」、テーマ2：「私が、地域が、行政ができることを考えよう」について参加者から多くの提案や意見が出され、皆で意見交換を行う活気の溢れる時間となりました。

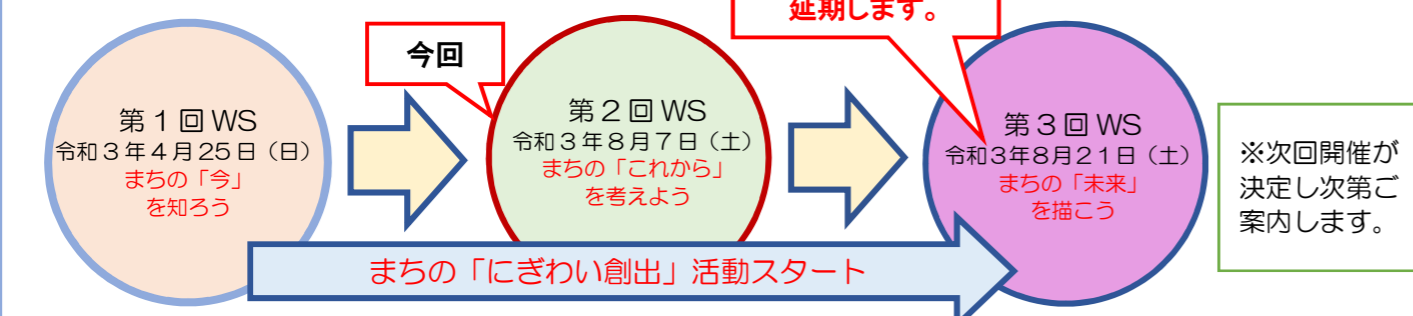
今回は、8月21日（土）大南市民センター（大南支所）で『まちなみ「未来」を描こう』と題し、グループ討論を行う予定としておりましたが、新型コロナウイルス感染状況を鑑み延期します。（次回開催が決定し次第ご案内します）

### 「戸次本町にぎわい創出ワークショップ」に取り組む背景について

戸次本町は、江戸時代から戦前にかけて建築された建造物が現存しており、その歴史的まちなみの景観形成を図るため、これまでに住宅等の建築物や外構、生垣等の修景整備などに取り組んできました。また、にぎわい創出に向け地元の方々によるイベントの開催やボランティアガイドなど様々な取り組みを行ってきました。

今後は、地域の特色を活かした取り組みや魅力を情報発信することにより、新たな「戸次本町のにぎわい創出」ができると考えています。

「戸次本町のにぎわい創出」に向け、「歴史的なまちなみの利活用」、「新たな魅力の創出・発信」、「まちづくり担い手の育成」といった視点から自由に意見を出し合い、住民参加型のまちづくりを展開していくためワークショップを行います。



### ●情報共有・提供

◆第1回ワークショップ「まち歩き」とアンケート調査の振り返り  
第1回ワークショップの参加者からいただいた意見と、後日行ったアンケートによる多くの意見や提案を、5つのカテゴリに分け整理しました。

- 1. 沿線等に関する意見（28件）**
  - 【車両に関する意見】（12件）
    - ・日常の道路のため速度制限は必要と思う。等
  - 【街並等整備に関する意見】（9件）
    - ・道路廻りを風情のあるデザインのある街灯に変更する。等
  - 【駐車場に関する意見】（7件）
    - ・駐車場が少ない。等
- 2. 街並・歴史的建物等に関する意見（48件）**
  - 【酒造蔵に関する意見】（10件）
    - ・蔵での催し物、西広場で「のみの市」等々。等
  - 【酒造西広場に関する意見】（12件）
    - ・酒造西広場が心地よい。（マルシェ・市などを開催すると楽しい）（親子で楽しめるイベントの開催）。等
  - 【妙正寺に関する意見】（2件）
    - ・妙正寺にベンチを置いて欲しい。ポーッとしたい。等
- 3. まちづくり等に関する意見（66件）**
  - 【イベントに関する意見】（11件）
    - ・「第0土曜日は軽トラ市」など、定期開催しては。等
  - 【サイン等（看板やのぼり旗等）に関する意見】（15件）
    - ・戸次街並のシンボルマークとか提灯とかはどうか。等
  - 【連携及び企業誘致等に関する意見】（13件）
    - ・周辺農家と連携してレンタル農園を進めては。等
  - 【まちづくりプラン等に関する意見】（21件）
    - ・帆足家の文化サロンにあやかって、絵画など文化活動を売りにしては。等
  - 【杏の会に関する意見】（7件）
    - ・杏の会の人達の活躍がすばらしい。等
- 4. 空き家、空き店舗・食、店舗等に関する意見（46件）**
  - 【飲食店に関する意見】（8件）
    - ・おいしいお店の誘致。等
  - 【料理、レシピ等食に関する意見】（12件）
    - ・「ごぼまん」のアレンジ料理で話題作り。ごぼまんラーメン、ごぼまんホットサンドなど。等
  - 【郷土料理に関する意見】（5件）
    - ・ほうちょう、ごぼまん、だんご汁などの郷土食を常時食べられる施設が無い。等
  - 【その他、提案、補助金等に関する意見】（21件）
    - ・空き家などを芸術家の方に利用してもらい、芸術・文化の街として打ち出す。等
- 5. 情報発信、人材等 その他に関する意見（24件）**
  - 【情報発信に関する意見】（6件）
    - ・ローカルニュースを発信しつけて、ここだけにしかない魅力を多くの人に伝える。等
  - 【歴史資源等に関する意見】（8件）
    - ・昔の建物が歴史を感じさせ情緒あふれる感じで良かった。
    - ・大野川交通体感 等
  - 【組織・人材等に関する意見】（10件）
    - ・地元の保育園から中学校までを巻き込んだ、地元の見直しを取り組んでいく。
    - ・ほうちょう保存会、ごぼまんの会、杏の会、おやじの会などでワークショップを開催し若年層の入会を促す。等

いただいた意見のカテゴリに対し、実現したい事、解決すべき事等を参加者に3つ選んでもらいました。



結果：1.沿道等に関する意見（9票）  
2.街並・歴史的建物等に関する意見（13票）  
3.まちづくり等に関する意見（11票）  
4.空き家、空き店舗・食、店舗等に関する意見（12票）  
5.情報発信、人材育成等その他に関する意見（12票）

参加者の投票を見ると全てのカテゴリに対し、課題解決の方策が求められていることが皆で確認できました。

# 第2回 ワークショップ成果

・提案した問題解決の方策に対し、事業実現に向けて「私が、地域が、行政ができる」ことを考えて頂き、ポストイットに記入しました。提案内容を班内で話し合い、その後、班毎に成果を発表しています。

## 2班 成果発表

- 「食」をテーマにしています。昔のような活気を取り戻すにはどうしたらいいかを考えました。必要な要素としては、①人を引き込む、②リピートしてくれる、③情報発信してくれる、3つを兼ね備えた飲食店を作るべきだと思います。
- 「組織・人材」という事を提案しました。地元住民として連携の一言になるんですが、新しい組織・人材の構築、既存組織との連携によるまちづくりを進めていきたい。
- 「組織・人材に関すること」に焦点を置きました。若者の活躍、ユニークでエネルギー溢れる発想を多く取り入れたいと考えています。
- 「空いている歴史的建物で郷土の実演、飲食ができる場所をつくる」を上げさせていただきました。店舗の活用を一緒に考えることができます。
- 「帆船家本家富春館の中をガイドできるように」という事を提案しました。これをあげた理由として3つあります。①若者にも興味が出るのではないか、②外国人は日本の文化や昔の生活にも興味がある、③杏の会の皆様も夏熱いので室内だと暑さもさほど気にならない。
- 「酒蔵について」提案しました。そこで酒を飲める施設にしたらどうか、地ビールや地酒、洋酒などが楽しめる空間をつくる。
- 「組織・人材に関すること」若い人と地域の人との交流によって新しいアイデアが生まれると思います。大分大学とのコラボにより地域再生を提案します。

## 3班 成果発表

- 私達6人の意見です。「オシャレなカフェで目玉となるスイーツ（季節のパフェ）インスタで発信女性に来てもらう」女性に来ていただくと戸次にぎわいに繋がると言った着眼点です。「人・農・食・泊を繋げたい」という事で、今も活動されている。生産者とカフェを繋げたり、体験型イベントなどをやっていける。「地元の人が喜んで集えるイベントを開催」という事で地元の人も集まる展示会やイベントを実施する。「地域の人材」について、学生を巻き込んで様々なワークショップを企画して行けば人材獲得にも繋がるのではないかと。「地域外からの人・モノ・カネを呼び込む仕組み」多様な世代の参加によって継続できるのではないかと。「住宅のセーフティネット制度を活用して子育て世代に空き家のリノベーションをして住んでいただく」この制度を活かしていけば地域の活性化に繋がるのではないかと。
- イタリアにアグリトゥリスモと言う個人の家を宿泊できる施設があります。アフターコロナに向けて戸次は今、準備の時期ではないかと思えます。提案を繋げていけば、戸次に外から人を呼び込んでいけると考え、メニューを提案させていただきます。

## 5班 成果発表

- それぞれの方策について・SDGsと観光、・イベントの定期開催、・居住環境の向上、・郷土料理をいつでも提供できる場所を設ける、・ファン会議（よそもの協議会）、・緑の連携（プランター、ハイキングバスケット）を提案しました。
- 緑の連携と言う意味で、現在戸次では杏を植えていることを知りました。杏が多くて、収穫も大変になってきているとのこと。杏を通じた収穫やジャムの作り方ワークショップなどイベントの定期開催も今後面白いのではないかと。イベントを通して郷土料理に繋がって行くのではないかと。施設を設けるとい事も後々にやって行ければ面白い。杏がそれほど取れているとは知らなかった。杏をファン会議（よそもの協議会）の特典にしたり、SDGsにも繋がるのではないかと。思います。



班	課題解決の方策	私ができること	地域ができること	行政ができること
2班	1 課題：昔のような活気がない 理想：昔（江戸？）時代のような活気。 （人口は減るから外からひとを入れる） 必要：・人を引っ張る（物） ・リピートしてくれる（物） ・情報発信しなくなる（もの） 手段：飲食店をもって来る 具休：SNS 発信しなくなるものを！	飲食業をしている経験を実店舗設計と実店舗運営の部分で力を発揮できる	人間関係 「外部を、新しいものを、受け入れる心構え」	・補助金 ・空き店舗紹介 ・行政の力を使った情報発信の手伝い
	2 2街並歴史的建物等に関する意見 （酒造蔵に関すること） ・市民が多様に使える施設とし、特に酒造蔵ということから、地ビールや地酒、洋酒も楽しめる空間とする。	酒場に通うこと	企業と連携して酒場の経営	市の中心から自家用車を利用しなくてアクセスできる方法を提供する！
	3 空いている歴史的建物で郷土の実演、飲食ができる場所をつくる。ベンチで休憩しながら。	どのような店舗方針かを一緒に考える。	空いている歴史的建築物の情報提供。	改修が必要な場合補助金等の情報提供。 店舗の情報発信。
	4 若い人材について ・大分大学の学生との地域創生 ・地域おこし協力隊の方の戸次への派遣を増やしてもらう ・ワーキングホリデーの戸次での受け入れを増やす	戸次に来たときに SNS で発信	ワーキングホリデーでの宿泊先、仕事、体験等の受け入れを増やす。 地域おこし協力隊の人員を増やすように要請。	ワーキングホリデー 地域おこし協力隊 を他県に広める。
	5 組織、人材にかんする 若者の活躍 ユニーク、エネルギー溢れる発想	私が出来る事 ユニーク フレー フレー	若い人の声に耳を傾ける	人材発掘
	6 帆船家本家富春館の中をガイドで案内できるようにすればよいのではないかと	友達や家族などに戸次や帆船家のことを共有し、若者に興味を持ってもらう	帆船さんに開放してもらえるよう地域の人々が協力する	・有形文化財に指定されているので、建物内部の破損を防ぎ開放できる状態にする。
	7 5-3 組織・人材 本町の街道を運営していく体制づくり 行政 自治体 企業 地域団体	協力、参加、交流 自分行政、地域団体、自治会、企業（商工会議所）	連携	連携
3班	1 オシャレなカフェで目玉となるスイーツ「季節のパフェ」インスタで発信	・友達を誘って戸次に連れて行く ・美味しいお店がきたら必ず行きます。	・目玉となる共通の食材、たくさんのお店で売り出す！ ・地域 WiFi の導入-いつでもどこでもつぶやける	情報発信、市報等で紹介
	2 人・農・食・泊 繋がり	生産者と Café をつなげる	・Café にかよう ・戸次の生産者と協力	情報の発信
	3 地元の人が喜んで集うイベントを開催	展示会やイベントのアイデア、子ども達に教室	・展示会の協力、参加 ・那賀さんの展覧会（巡回展）をあっちこっちで開催する。	情報の発信
	4 組織、人材が大切 観光をつつ するにせよ、どんな人をターゲットにするかによって方策が違ってくる。 綿花的な事にせよ戸次オリジナルのものを作る。 そのため、何か法人格のものを作って国の雇用創出に関する事業か地方創生的な事業の補助金を利用して、戸次にしかできないものを作る。そのための人づくり、組織づくりは大切	駒	連帯	・お金 ・学生を巻き込んで様々なワークショップを企画する。 コンテストとか・・・
	5 地域外からの人・モノ・カネを呼び込む仕組み	仕組みづくりの支援として参加	・地域の方の持っているネットワークからヒト・モノ・カネを呼び込む ・継続的な活動の核とする。 ・多様な世代の参加	仕組みづくり、体制づくりの支援（資金、場所）
	6 住宅セーフティネット制度を活用して子育て世代に空き家をリノベーションして住んでいただくことで活性化	説明会などがあれば、協力します。	関係企業・空き家の所有者の協力を求める	制度をより多くの人に知っていただき応募をつのる。
5班	1 SDGs と観光 子どもたちまで続く有志作業部会チームの発足	全国の観光地をみてきた観点からアイデアとビジョンの提案と地域資源の発掘と構築と活用	情報や資料集め、行政との連携したデータベースの作成と共有（観光資源）	左と同じ
	2 イベントの定期開催	イベントのアイデアを出す、提案する。	推進協や地域の人々場所の提供。	場所の提供 関わってもらう
	3 居住環境の向上=ストック（空き家）の活用	空き家調査協力	空き家調査協力	空き家をネットワーク化して公営住宅再編
	4 郷土料理をいつでも提供できる場所を設ける	郷土料理のおじさんを広報する。（ほうちょう、ごぼまん、だんご汁等）	・郷土料理を伝承していく。 ・ワークショップを開催	郷土料理を食べられる施設を設ける。
	5 ファン会議（よそもの協議会）	参加する。SNS 広報	場所の提供	予算を付ける
	6 緑の連携 ・プランター ・ハイキングバスケット等	植物選び、プランター等、飾り方のアイデア出し	みんなでどんな植物を育て、飾っていくか考える	（飾るための）プランターの提供